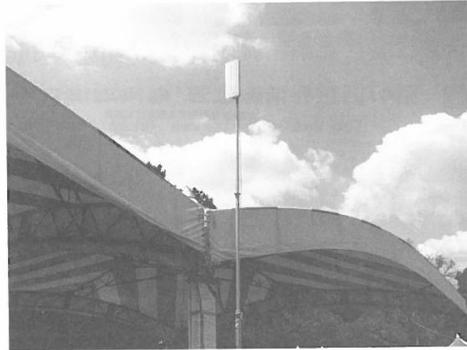


プレー映像スコア情報リアルタイムで配信 ～IPDCによるエリア放送を実施～

4月30日から5月3日まで開催されたゴルフトーナメント「第56回中日クラウンズ」(名古屋ゴルフ倶楽部和合コース)で、IPDCによるエリア放送が実施された。これによりギャラリー(観戦者)は、選手の現在位置やスコア情報などを、スマートフォンやタブレット端末などで即時に見ることが可能となり、放送の新たなスタイルが登場した。

IPDC(IP Data Cast)とは、(映像等の)情報をIPパケットにして放送波に乗せて一斉配信する技術で、これによりユーザーは手持ちのパソコンや携帯端末などで視聴が可能となる。また、エリア放送は、ホワイトスペースを利用した、限定されたエリアに向けて発信される放送である。今回、開催されたゴルフトーナメントでは、CBCテレビ、IPDCフォーラム、TBSテレビ、毎日放送、DXアンテナ、NTTエレクトロニクス、ネクストウェブの協力により、IPDCによるエリア放送が実現した。

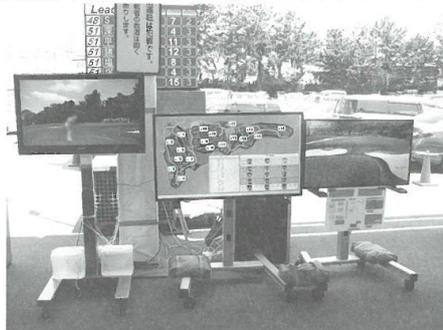
今回のギャラリー向けエリア放送の概要は以下の様である。①会場内に設けられたゴルフ中継放送センターで、(ワンセグを含む)エンコードされた選手のプレー映像と、選手のスコア情報が合成された後、会場内の高さ約30mの送信アンテナから送信される。②DXアンテナの受信アンテナで受信された情報はIPDC受信機を通して、選手がプレーする様子やスコア情報が視聴可能になるほか、ワンセグ端末で受信された映像も即座に見られるというものである。放送形式にはHLS(HTTP Live Streaming)というアップルが開発した動画配信のフォーマットが使われているため、特別なストリーミングサーバーは必要としていない。また、今回は約10mWのパワーで送信されたが、これはゴルフ場内のギャラリーの視



受信アンテナ

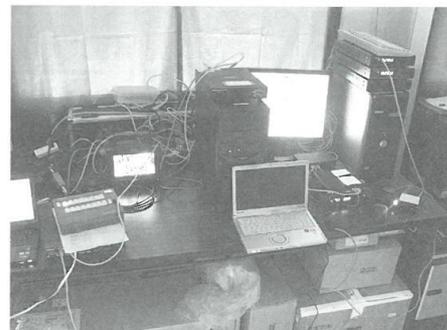
聴を対象にしているためパワーが抑えられており、大きなパワーを出せば、より広範囲で視聴が可能になることは言うまでもない。

今回のIPDCによるエリア放送に関して、根岸英彦氏(DXアンテナ(株)デルカテック商品企画部統括部長兼技術第2部部长)は、「放送と通信がますます融合する中、一般のユーザーにとっては従来、テレビがもっとも親しいユーザーインターフェイスであったが、若い人たちにおいてはパソコンも使わなくなりつつあり、スマホやタブレット端末に集約されつつある。そこで、コンテンツをセカンドデバイスといわれるものに、いかに出していかかがポイントになると考えている。当社は主に(映像情報の)送り受けを中心に行っており、今回も受信機と



受信したさまざまな情報を表示

いう形でレシーバーの部分をやらせていただいているが、将来的には受信系を含む送出系やシステムの構築を含め、トータルのサプライヤーを目指している。最終的には、ユーザーの視聴スタイルがどのようなものになるか不明だが、いろいろなデバイスでさまざまなコンテンツを自由に送り届けるというのが当社の目



編集中の機器

標だ」と説明した。会場内は、選手の華麗なプレーを見ようとギャラリーの熱気であふれていたが、IPDCを使った新たな放送システムの実施に向けた関係者の情熱が拍車をかけていたようだ。

(T)